

はやし 武士団 林氏の形成

平安時代後半、加賀国では手取川扇状地（石川平野）^{てどりがわ}の開発を通して、その主体的役割を果たした武士団の形成が図られるようになりました。その中心的存在として林一族が登場します。

林氏は、越前国^{えちぜん}を拠点とした藤原利仁^{ふじわらのとしひと}将軍の子孫とされ、加賀国内の田畑の再開発に成功したことで勢力を伸ばし、野々市市域を含む手取川扇状地一帯にあたる林郷^{はやしごう}を成立させました。

現在市内に残る「上林」^{かんばやし}「中林」^{なかばやし}「下林」^{しもばやし}の地名は、林氏が活躍したことを物語っています。



上林 林郷八幡神社